NVEによるボリュームデータの暗号化
ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/ontap/encryption-at-rest/encrypt-volumes-concept.html on December 20, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

NVEによるボリュームデータの暗号化

NVEによるボリュームデータの暗号化の概要

ONTAP 9 .7以降では、VEライセンスがあり、オンボードまたは外部のキー管理を使用している場合、アグリゲートとボリュームの暗号化がデフォルトで有効になります。ONTAP 9 .6以前では、新しいボリュームまたは既存のボリュームで暗号化を有効にできます。ボリューム暗号化を有効にする前に、VEライセンスをインストールし、キー管理を有効にしておく必要があります。NVEはFIPS-140-2レベル1に準拠しています。

VEライセンスでアグリゲートレベルの暗号化を有効にする

ONTAP 9 .7以降では"VEライセンス"、およびオンボードまたは外部のキー管理を使用している場合、新しく作成したアグリゲートとボリュームはデフォルトで暗号化されます。ONTAP 9 6以降では、アグリゲートレベルの暗号化を使用して、暗号化するボリュームの包含アグリゲートにキーを割り当てることができます。

タスクの内容

アグリゲートレベルの重複排除をインラインまたはバックグラウンドで実行する場合は、アグリゲートレベルの暗号化を使用する必要があります。そうしないと、NVEでアグリゲートレベルの重複排除がサポートされません。

アグリゲートレベルの暗号化が有効になっているアグリゲートは、 _NAE アグリゲートと呼ばれます（ NetApp Aggregate Encryption の場合）。NAEアグリゲート内のすべてのボリュームは、NAEまたはNVE暗号化で暗号化する必要があります。アグリゲートレベルの暗号化では、アグリゲート内に作成するボリュームはデフォルトでNAE暗号化で暗号化されます。デフォルトを上書きしてNVE暗号化を使用することもできます。

NAEアグリゲートではプレーンテキストボリュームはサポートされません。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

手順

1. アグリゲートレベルの暗号化を有効または無効にします。

目的	使用するコマンド
ONTAP 9 .7以降でNAEアグリゲートを作成する	`storage aggregate create -aggregate` *`aggregate_name`* `-node` *`node_name`*
ONTAP 9 .6を使用してNAEアグリゲートを作成します。	`storage aggregate create -aggregate` *`aggregate_name`* `-node` *`node_name`* `-encrypt-with -aggr-key true`

NAE以外のアグリゲートをNAEアグリゲートに変換する	`storage aggregate modify -aggregate` *`aggregate_name`* `-node` *`node_name`* `-encrypt-with -aggr-key true`
NAEアグリゲートをNAE以外のアグリゲートに変換する	`storage aggregate modify -aggregate` *`aggregate_name`* `-node` *`node_name`* `-encrypt-with -aggr-key false`

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次のコマンドは、でアグリゲートレベルの暗号化を有効にし `aggr1`ます。

- ONTAP 9 .7以降：

```
cluster1::> storage aggregate create -aggregate aggr1
```

- ONTAP 9 .6以前：

```
cluster1::> storage aggregate create -aggregate aggr1 -encrypt-with
-aggr-key true
```

2. アグリゲートで暗号化が有効になっていることを確認します。

`storage aggregate show -fields encrypt-with-aggr-key`

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次のコマンドは、暗号化が有効になっていることを確認し `aggr1`ます。

```
cluster1::> storage aggregate show -fields encrypt-with-aggr-key
aggregate            encrypt-aggr-key
-------------------- ----------------
aggr0_vsim4          false
aggr1                true
2 entries were displayed.
```

終了後

コマンドを実行し `volume create`て暗号化されたボリュームを作成します。

ノードの暗号化キーを保存するために KMIP サーバを使用している場合、ボリュームを暗号化すると、ONTAP によって暗号化キーがサーバに自動的に「プッシュ」されます。

新しいボリュームで暗号化を有効にする

コマンドを使用すると、新しいボリュームで暗号化を有効にできます `volume create`。

タスクの内容

ボリュームは、NetApp Volume Encryption（NVE）およびONTAP 9 .6以降のNetApp Aggregate Encryption（NAE）を使用して暗号化できます。NAEおよびNVEの詳細については、を参照してボリューム暗号化の概要ください。

この手順で説明されているコマンドの詳細については、を"ONTAPコマンド リファレンス"参照してください。

ONTAPの新しいボリュームで暗号化を有効にする手順は、使用しているONTAPのバージョンと特定の構成によって異なります。

- ONTAP 9 4以降では、オンボードキーマネージャのセットアップ時にを有効にした場合、 `cc-mode`コマンドで作成するボリュームは `volume create`、指定したかどうかに関係なく自動的に暗号化され`-encrypt true`ます。
- ONTAP 9 .6以前のリリースでは、コマンドを指定して `volume create`暗号化を有効にする必要があります `-encrypt true`（有効にしていない場合 `cc-mode`）。
- ONTAP 9でNAEボリュームを作成する場合は、アグリゲートレベルでNAEを有効にする必要があります。6このタスクの詳細については、を参照してくださいVEライセンスでアグリゲートレベルの暗号化を有効にします。
- ONTAP 9 .7以降では"VEライセンス"、およびオンボードまたは外部キー管理を使用している場合、新しく作成したボリュームはデフォルトで暗号化されます。NAEアグリゲート内に作成される新しいボリュームのタイプは、デフォルトではNVEではなくNAEになります。
  - ONTAP 9 .7以降のリリースでは、コマンドに `volume create`を追加してNAEアグリゲートにボリュームを作成すると、 `-encrypt true`そのボリュームではNAEではなくNVE暗号化が使用されます。NAEアグリゲート内のすべてのボリュームは、NVEまたはNAEで暗号化する必要があります。

NAEアグリゲートではプレーンテキストボリュームはサポートされません。

手順

1. 新しいボリュームを作成し、そのボリュームで暗号化を有効にするかどうかを指定します。新しいボリュームがNAEアグリゲートに配置する場合、デフォルトでNAEで暗号化されます。

作成対象	使用するコマンド
NAEボリューム	`volume create -vserver` *`SVM_name`* `-volume` *`volume_name`* `-aggregate` *`aggregate_name`*

NVEボリューム	`volume create -vserver` *`SVM_name`* `-volume` *`volume_name`* `-aggregate` *`aggregate_name`* `-encrypt true`+ NAEがサポートされないONTAP 9 .6以前では、 `-encrypt true` ボリュームをNVEで暗号化するように指定します。NAEアグリゲートにボリュームが作成されるONTAP 9 .7以降では、 `-encrypt true`デフォルトの暗号化タイプであるNAEよりも優先されてNVEボリュームが作成されます。
プレーンテキストボリューム	`volume create -vserver` *`SVM_name`* `-volume` *`volume_name`* `-aggregate` *`aggregate_name`* `-encrypt false`

リンクhttps://docsの詳細については、ONTAPコマンドリファレンスを参照してください。NetApp .com /us-en/ ONTAP -CLI/ volume-create.html[`volume create`^]コマンドを参照してください。

2. ボリュームで暗号化が有効になっていることを確認します。

   ```
   volume show -is-encrypted true
   ```

   コマンド構文全体については、を参照してください "ONTAPコマンド リファレンス"。

結果

ノードの暗号化キーの格納にKMIPサーバを使用している場合は、ボリュームを暗号化するときにONTAPからサーバに暗号化キーが自動的に「プッシュ」されます。

= :allow-uri-read:

既存のボリュームで暗号化を有効にする

既存のボリュームで暗号化を有効にするには、コマンドまたは `volume encryption conversion start`コマンドを使用し `volume move start`ます。

タスクの内容

- ONTAP 9 3以降では、コマンドを使用して、既存のボリュームの暗号化を「インプレース」で有効にできます `volume encryption conversion start`。ボリュームを別の場所に移動する必要はありません。または、コマンドを使用することもできます `volume move start`。
- ONTAP 9 .2以前では、コマンドのみを使用して、既存のボリュームを移動して暗号化を有効にできます `volume move start`。

volume encryption conversion startコマンドを使用して、既存のボリュームで暗号化を有効にする

ONTAP 9 3以降では、コマンドを使用して、既存のボリュームの暗号化を「インプレース」で有効にできます `volume encryption conversion start`。ボリュームを別の場所に移動する必要はありません。

変換処理を開始したら、完了する必要があります。処理中にパフォーマンスの問題が発生した場合は、コマンドを実行して処理を一時停止し、 `volume encryption conversion resume`コマンドを実行して処理を

再開できます `volume encryption conversion pause。

> SnapLockボリュームの変換にはを使用できません `volume encryption conversion start。

手順

1. 既存のボリュームで暗号化を有効にします。

   `volume encryption conversion start -vserver SVM_name -volume volume_name`

   コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

   次のコマンドは、既存のボリュームで暗号化を有効にし `vol1`ます。

   ```
   cluster1::> volume encryption conversion start -vserver vs1 -volume vol1
   ```

   ボリュームの暗号化キーが作成されます。ボリュームのデータが暗号化されます。

2. 変換処理のステータスを確認します。

   `volume encryption conversion show`

   コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

   次のコマンドは、変換処理のステータスを表示します。

   ```
   cluster1::> volume encryption conversion show

   Vserver   Volume   Start Time           Status
   -------   ------   ------------------   ----------------------------
   vs1       vol1     9/18/2017 17:51:41   Phase 2 of 2 is in progress.
   ```

3. 変換処理が完了したら、ボリュームで暗号化が有効になっていることを確認します。

   `volume show -is-encrypted true`

   コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

   次のコマンドは、上の暗号化されたボリュームを表示し `cluster1`ます。

   ```
   cluster1::> volume show -is-encrypted true

   Vserver  Volume  Aggregate  State  Type  Size  Available  Used
   -------  ------  ---------  -----  ----  -----  ---------  ----
   vs1      vol1    aggr2     online    RW  200GB    160.0GB  20%
   ```

結果

ノードの暗号化キーを保存するために KMIP サーバを使用している場合、ボリュームを暗号化すると、ONTAP によって暗号化キーがサーバに自動的に「プッシュ」されます。

volume move startコマンドを使用して既存のボリュームで暗号化を有効にする

コマンドを使用すると、既存のボリュームを移動して暗号化を有効にできます `volume move start`。ONTAP 9 .2以前ではを使用する必要があります `volume move start`。使用するアグリゲートは同じアグリゲートでも別のアグリゲートでもかまいません。

タスクの内容

- ONTAP 9 .8以降では、を使用してSnapLockまたはFlexGroupのボリュームで暗号化を有効にでき `volume move start`ます。
- ONTAP 9 .4以降では、オンボードキーマネージャのセットアップ時に「cc-mode」を有効にすると、コマンドで作成するボリュームが自動的に暗号化されます `volume move start`。指定する必要はありません `-encrypt-destination true`。
- ONTAP 9 6以降では、アグリゲートレベルの暗号化を使用して、移動するボリュームの包含アグリゲートにキーを割り当てることができます。一意のキーで暗号化されたボリュームは、_NVEボリューム_と呼ばれます（NetAppボリューム暗号化を使用することを意味します）。アグリゲートレベルのキーで暗号化されたボリュームは、 _NAE ボリューム（ NetApp Aggregate Encryption の場合）と呼ばれます。NAEアグリゲートではプレーンテキストボリュームはサポートされません。
- ONTAP 9 14.1以降では、NVEを使用してSVMルートボリュームを暗号化できます。詳細については、を参照してください SVMルートボリュームでのNetAppボリューム暗号化の設定。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者であるか、クラスタ管理者から権限を委譲されたSVM管理者である必要があります。

"volume moveコマンドの実行権限の委譲"

手順

1. 既存のボリュームを移動し、そのボリュームで暗号化を有効にするかどうかを指定します。

変換対象	使用するコマンド
プレーンテキストボリュームからNVEボリューム	`volume move start -vserver SVM_name -volume volume_name -destination-aggregate aggregate_name -encrypt-destination true`
NVEボリュームまたはプレーンテキストボリュームからNAEボリューム（デスティネーションでアグリゲートレベルの暗号化が有効になっている場合）	`volume move start -vserver SVM_name -volume volume_name -destination-aggregate aggregate_name -encrypt-with-aggr-key true`
NAEボリュームからNVEボリューム	`volume move start -vserver SVM_name -volume volume_name -destination-aggregate aggregate_name -encrypt-with-aggr-key false`

NAEボリュームからプレーンテキスト ボリューム	`volume move start -vserver SVM_name -volume volume_name -destination-aggregate aggregate_name -encrypt-destination false -encrypt-with-aggr-key false`
NVEボリュームからプレーンテキストボリューム	`volume move start -vserver SVM_name -volume volume_name -destination-aggregate aggregate_name -encrypt-destination false`

コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

次のコマンドは、という名前のプレーンテキストボリュームをNVEボリュームに変換し `vol1`ます。

```
cluster1::> volume move start -vserver vs1 -volume vol1 -destination
-aggregate aggr2 -encrypt-destination true
```

次のコマンドは、デスティネーションでアグリゲートレベルの暗号化が有効になっている場合に、という名前のNVEボリュームまたはプレーンテキストボリュームをNAEボリュームに変換し `vol1`ます。

```
cluster1::> volume move start -vserver vs1 -volume vol1 -destination
-aggregate aggr2 -encrypt-with-aggr-key true
```

次のコマンドは、という名前のNAEボリュームをNVEボリュームに変換し `vol2`ます。

```
cluster1::> volume move start -vserver vs1 -volume vol2 -destination
-aggregate aggr2 -encrypt-with-aggr-key false
```

次のコマンドは、という名前のNAEボリュームをプレーンテキストボリュームに変換し `vol2`ます。

```
cluster1::> volume move start -vserver vs1 -volume vol2 -destination
-aggregate aggr2 -encrypt-destination false -encrypt-with-aggr-key false
```

次のコマンドは、という名前のNVEボリュームをプレーンテキストボリュームに変換し `vol2`ます。

```
cluster1::> volume move start -vserver vs1 -volume vol2 -destination
-aggregate aggr2 -encrypt-destination false
```

2. クラスタボリュームの暗号化タイプを表示します。

   `volume show -fields encryption-type none|volume|aggregate`

   この `encryption-type`フィールドは、ONTAP 9 .6以降で使用できます。

コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

次のコマンドは、のボリュームの暗号化タイプを表示します `cluster2`。

```
cluster2::> volume show -fields encryption-type

vserver  volume  encryption-type
-------  ------  ---------------
vs1      vol1    none
vs2      vol2    volume
vs3      vol3    aggregate
```

3. ボリュームで暗号化が有効になっていることを確認します。

   `volume show -is-encrypted true`

   コマンド構文全体については、コマンドのマニュアルページを参照してください。

   次のコマンドは、上の暗号化されたボリュームを表示し `cluster2`ます。

```
cluster2::> volume show -is-encrypted true

Vserver  Volume  Aggregate  State  Type  Size  Available  Used
-------  ------  ---------  -----  ----  -----  --------- ----
vs1      vol1    aggr2     online    RW  200GB    160.0GB  20%
```

結果

ノードの暗号化キーの格納にKMIPサーバを使用している場合、ボリュームの暗号化時にONTAPからサーバに暗号化キーが自動的にプッシュされます。

SVMルートボリュームでのNetAppボリューム暗号化の設定

ONTAP 9 14.1以降では、Storage VM（SVM）のルートボリュームでNetApp Volume Encryption（NVE）を有効にすることができます。NVEでは、ルートボリュームが一意のキーで暗号化されるため、SVMのセキュリティが向上します。

タスクの内容

SVMルートボリューム上のNVEは、SVMの作成後にのみ有効にできます。

開始する前に

- NetAppアグリゲート暗号化（NAE）で暗号化されたアグリゲートにSVMルートボリュームを配置しないでください。
- オンボードキーマネージャまたは外部キーマネージャを使用した暗号化を有効にしておく必要があります。

- ONTAP 9.14.1以降が実行されている必要があります。
- NVEで暗号化されたルート ボリュームが含まれるSVMを移行するには、移行の完了後にSVMルート ボリュームをプレーンテキスト ボリュームに変換したうえで、再度SVMルート ボリュームを暗号化する必要があります。
  - SVM移行のデスティネーション アグリゲートでNAEを使用する場合、ルート ボリュームはデフォルトでNAEを継承します。
- SVMがSVMディザスタ リカバリ関係に含まれる場合、次のことに注意してください。
  - ミラーされたSVMの暗号化設定は、デスティネーションにコピーされません。ソースまたはデスティネーションでNVEを有効にする場合は、ミラーされたSVMルート ボリュームで個別にNVEを有効にする必要があります。
  - デスティネーション クラスタ内のすべてのアグリゲートでNAEが使用される場合、SVMルート ボリュームでもNAEが使用されます。

手順

ONTAP CLIまたはSystem Managerを使用して、SVMルートボリュームでNVEを有効にできます。

CLI

NVEは、SVMルートボリュームでインプレースで有効にすることも、アグリゲート間でボリュームを移動することによって有効にすることもできます。

ルートボリュームをインプレースで暗号化

1. ルートボリュームを暗号化されたボリュームに変換します。

   ```
   volume encryption conversion start -vserver svm_name -volume volume
   ```

2. 暗号化が成功したことを確認しますには `volume show -encryption-type volume`、NVEを使用しているすべてのボリュームのリストが表示されます。

SVMルートボリュームの移動による暗号化

1. ボリュームの移動を開始します。

   ```
   volume move start -vserver svm_name -volume volume -destination-aggregate
   aggregate -encrypt-with-aggr-key false -encrypt-destination true
   ```

   の詳細 `volume move`については、を参照してくださいボリュームの移動。

2. コマンドを使用して、処理が成功した `volume move show`ことを確認します `volume move`。には `volume show -encryption-type volume`、NVEを使用しているすべてのボリュームのリストが表示されます。

System Manager

1. ストレージ>ボリュームに移動します。
2. 暗号化するSVMルートボリュームの名前の横にある[Edit]**を選択します ⋮ 。
3. [**Storage and Optimization*]**見出しで、**[** Enable encryption*]を選択します。
4. 保存を選択します。

ノードのルートボリューム暗号化を有効にする

ONTAP 9 8以降では、NetAppボリューム暗号化を使用してノードのルートボリュームを保護できます。

タスクの内容

この手順はノードのルートボリュームに適用されます。SVMルートボリュームには適用されません。SVMルートボリュームは、アグリゲートレベルの暗号化およびで保護できますONTAP 9.14.1以降、NVE。

ルートボリュームの暗号化は、開始後に完了する必要があります。処理を一時停止することはできません。暗号化が完了すると、ルート ボリュームに新しいキーを割り当てられなくなるほか、セキュア パージ処理を実行できなくなります。

開始する前に

- システムでHA構成を使用している必要があります。
- ノードのルートボリュームを作成しておく必要があります。
- オンボードキーマネージャまたはKey Management Interoperability Protocol（KMIP）を使用する外部キー管理サーバがシステムに搭載されている必要があります。

手順

1. ルートボリュームを暗号化します。

   ```
   volume encryption conversion start -vserver SVM_name -volume root_vol_name
   ```

2. 変換処理のステータスを確認します。

   ```
   volume encryption conversion show
   ```

3. 変換処理が完了したら、ボリュームが暗号化されていることを確認します。

   ```
   volume show -fields
   ```

   次に、暗号化されたボリュームの出力例を示します。

   ```
   ::> volume show -vserver xyz  -volume vol0 -fields is-encrypted
   vserver    volume is-encrypted
   ---------- ------ ------------
   xyz        vol0   true
   ```

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。